

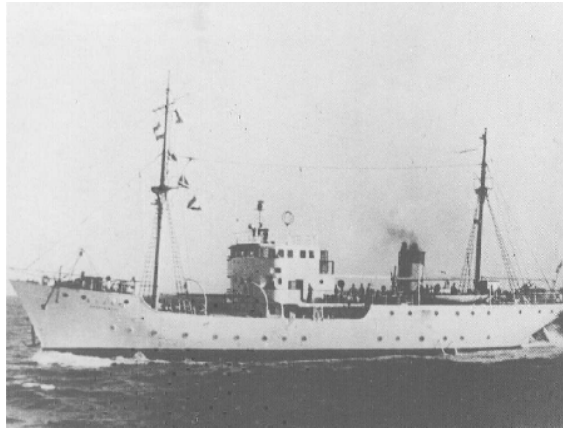
* 1958年スワロフ日食時のスワロフ島海図発見

アーカイブ新聞第7号にニューギニア・ラエ日食の記録映画フィルムが発見されたニュースを書き、同号にそれまでに映画フィルム4本をDVD化したと書いた。その中に1958年のスワロフ日食の記録映画が含まれ以下のように書かれている。

1) タイトル：スワロフ島日食観測紀行 (25分)

1. 日食日時：1958年10月12日
2. 記録映画収録期間：1958年8月25日～1958年11月22日
3. 作成者：東京天文台 (?)
4. カラー
5. 内容：東京港を出航してスワロフ島に到着するまでの船内の様子、日食観測の様子、ホノルルを經由して日本に帰港するまでが記録されている。船内のリクレーションとしての赤道祭、漁業実習なども収録されている。当時のスタッフは判別可能。
状態：元はカラーであったと思われるが退色が進み、映像はセピア色、音声も殆んど聞き取れない
6. 日食観測隊員：末元善三郎、日江井栄二郎、清水実、山下泰正（東大理）、田鍋浩義、加藤正、橋本勇
7. 観測地：北クック諸島スワロフ島（無人さんご礁）
8. 結果：閃光スペクトル、偏光の写真測光、大気光輝線の強度測定
9. この日食観測に使われた船は、北海道大学水産学部の練習船「おしよろ丸」であったと聞いていた。インターネットで調べると以下の記事が[北海道大学水産学部 練習船おしよろ丸ホームページ](#)に掲載されていた。

「1927(昭和2)年5月、三重県鳥羽町株式会社神戸製鋼所鳥羽工場で補助機関(ズルザー型500馬力)付バーチンケン型帆として建造された。その後1942年帆装を撤去して汽船に改装、更に1952年には船体延長および主機関の換装工事を施行し、総紬数616.72tonとなった。戦前、北洋航海中ソ連監視船に不法臨検を受けた(1937年)こともあり、また大戦中は米国艦載機による攻撃を受けたが九死に一生を得てその難を免れた。戦後北太平洋横断、或はインド洋に遠出、**1958年南太平洋の日食観測に参加するなど数奇な運命**を持って1962(昭和37)年8月その任を閉じた。おしよろ丸Ⅱ世は、54次の練習航海を修め総航程30万海里を涛波し延乗船学生は、1,648名を数えた。」



船で島に近づくには、海図が必要なことは当然だが、このたび、その航海に使われた海図が手に入った。なんと、どういう経緯か、国立天文台名誉教授西村史郎氏が持っており、天文情報センターにアーカイブ室が出来たと聞いて、寄贈してくださった。図1がその海図である。



図 1